

ダムの堆砂対策の基本的な考え方について

1. ダムは大規模な河川横断工作物であり、ダムに土砂が堆積することは避けられないことから、堆砂容量として、原則、100年間で堆積すると見込まれる容量を確保している。

また、土砂が洪水調節容量の部分にも堆積することがあることも考慮して、洪水調節容量は、一般的に、2割程度の余裕を見込んでいる。

2. 貯水池内に堆積した又は流入する土砂については、ダムの有する洪水調節機能に支障が生じないように、土砂の排除等を行うこととしている。
3. 具体的には、堆積土砂の掘削・浚渫、貯砂ダムの設置、排砂バイパス、排砂ゲートの設置等を組み合わせて、堆砂対策を進めることとしている。
4. このように、計画段階から管理段階に至るまで、様々な堆砂対策を進めてきており、引き続き、必要な対策を講じていくこととしている。

ダム貯水池の容量配分(イメージ)

